

科目名	失語症Ⅲ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位
				必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 後期
【授業の目的・ねらい】 失語症の評価・診断・治療を国際生活機能分類の概念的枠組みを通して 言語治療に役立てることができる。国家試験対策問題を作成して基礎知識を身につける。							
【実務者経験】 幸生病院・ドレミリハビリテーション・機能訓練教室にて、言語聴覚士として失語症者や運動性構音障害者の訓練に従事する。							
【授業全体の内容の概要】 失語症と周辺の言語障害等について、症例検討を含めた演習を通して臨床に向けた基礎的な知識と技術を身につける。症例報告書の作成手法を理解できる。 臨床と国家試験に必要な基礎知識を身につける。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語治療において大切な観察能力や情報収集能力を養い、失語症者の心理・社会的背景を把握することができる。検査・評価・教材作成などの一連の作業を通して失語症者に適した訓練法を見出し、有効なコミュニケーション手段を考えることができる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	症例報告書の作成ができる。③						配布資料
2	症例報告書の作成ができる。④						配布資料
3	実習報告を通して今後の課題を見つけることができる。						配布資料
4	症例Ⅱの症例報告会を通して質疑応答への対応力を養うことができる。						配布資料
5	国家試験対策問題の作成と問題を解くことができる。①（言語と脳）						教科書 配布資料
6	国家試験対策問題の作成と問題を解くことができる。②（失語症状）						教科書 配布資料
7	国家試験対策問題の作成と問題を解くことができる。③（失語症候群）						教科書 配布資料
8	国家試験対策問題の作成と問題を解くことができる。④（言語聴覚療法）						教科書 配布資料
9	国家試験対策問題の作成と問題を解くことができる。⑤（失語症の評価・診断）						教科書 配布資料
10	国家試験対策問題の作成と問題を解くことができる。⑥（言語治療の理論と技法）						教科書 配布資料
11	国家試験対策問題の作成と問題を解くことができる。⑦（言語治療の実際）						教科書 配布資料
12	国家試験対策問題の作成と問題を解くことができる。⑧（情報処理モデル）						教科書 配布資料
13	国家試験対策問題の作成と問題を解くことができる。⑨（情報処理モデル）						教科書 配布資料
14	失語症のまとめ①						教科書 配布資料
15	失語症のまとめ②						教科書 配布資料
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 失語症学 なるほど！失語症の評価と治療 検査結果の解釈から訓練法の立案まで							
【準備学習・時間外学習】 教科書を熟読して、要点を押さえる。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 小テストを10点、定期試験を90点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							